

2022年8月15日

ホロジックジャパン、トリコモナス原虫とカンジダ症の原因菌種を同時検出する核酸増幅法 TMA 法を用いた研究用試薬の販売を8月15日より開始

ホロジックジャパン株式会社（本社：東京都文京区）は、女性の膣トリコモナス症の発症原因となるトリコモナス原虫と性器カンジダ症の発症原因となるカンジダ属の一部の菌種を同時検出する研究用試薬の核酸増幅法 TMA 法を用いた「Aptima®カンジダ ヴァジナイテイス/トリコモナス ヴァギナリス Assay」の販売を2022年8月15日から開始する。

膣トリコモナス原虫による感染症は、性行為以外にも身に着ける下着・タオル・トイレなど身近なものからも感染する可能性があるポピュラーな性感染症の1つ¹。男女で症状が異なり女性では泡状で悪臭の強いおりものの増加・外陰や膣のかゆみなどを示す。なお、男性感染者の70.8%、女性感染者の約50%は無症状である。

性器カンジダ症は、激しいかゆみ・発赤・白いカス状のおりもの・おりものの増加等の症状を伴う性感染症。主に女性に頻繁にみられる疾患で「膣炎」の90%は、「細菌性膣炎」、「性器カンジダ症」、「膣トリコモナス症」が個別原因、または混合感染して引き起こされていると言われている。

なお、混合感染と重複した症状は診断を難しくして適切ではない治療につながる可能性があり、正確な診断には感度・特異度の高い遺伝子検査の応用が期待されてきた。

同社はこれまでに「Aptima® トリコモナス ヴァギナリス Assay」（研究用試薬）を販売してきたが、今回の改良された研究用試薬の発売により性器カンジダ症の原因菌種も同時に検出することで、より正確で早期の性感染症の識別が実現されるとしている。